

# うさぎの親子

文/絵 ふるしょうまいこ

sample





ある森にうさぎの親子がいました。  
ある日、お母さんうさぎは、  
「今日はおじいさんのお家に行きますよ。早く支度して。」  
と、二匹の子うさぎに言いました。



「さあ、でかけますよ。迷子にならないように、  
母さんにちゃんとおついてくるんですよ。」  
お母さんうさぎは、子うさぎたちに言いました。

さあ、出発です。

「ちゃんとしてきなさいよ。もし、迷子になったら、  
怖い動物に食べられてしまうかもしれませんからね。」  
と、お母さんうさぎは言いました。





しばらく行くと、青いバッグの子うさぎは、  
とてもきれいな木苺を見つけました。

青いバッグの子うさぎは、立ち止まって、  
じっと木苺を見つめました。

でも、お母さんうさぎは、それに気づかずに  
どんどん歩いて行きます。



その木苺は、きらきらとしていて、  
それから、とてもいいにおいがしています。  
青いバッグの子うさぎは、一つ食べてみました。  
すると、それはとても美味しい木苺でした。  
子うさぎは、おじいさんに持っていったらよろこんでくれるかな。  
と思いました。



sample

青いバッグの子うさぎは、おじいさんのために  
木苺をバッグにつめはじめました。  
そこへやって来たのは、  
野ねずみのおばさんです。  
野ねずみのおばさんは子うさぎに、  
「坊や、一人かい？」  
と聞きました。



青いバッグの子うさぎは、  
「お母さんと妹と一緒にだよ。」  
と言って振り返りました。  
でも、二匹の姿はどこにも見えません。  
野ねずみのおばさんは、  
「坊や、迷子のようなだね。」  
と言いました。



お母さんとはぐれてしまったことに気がついた子うさぎは、  
急に不安になって、うずくまりました。  
「どうしよう、恐い動物に食べられちゃう。  
お婆さんは恐い動物なの？」  
と、野ねずみのお婆さんに聞きました。

sample



「私が恐い動物？ 坊やより、こんなに小さいんだよ。」

と、野ねずみのおばさんは言いました。

「ああ、良かった。」子うさぎは、言いました。

「しっ、静かに！キツネのにおいがしてきたよ。」

こっちに来ているたいだね。」

そういつて、野ねずみのおばさんは

耳をすましました。

sample





sample

大変です。

キツネが来ないうちに、どこかに隠れなくちゃいけません。

そこで、野ねずみのおばさんは、岩と倒れた木の間に出来た穴に子うさぎを隠すことにしました。

「早く、この中に入りなさい。」

野ねずみのおばさんは、子うさぎに言いました。



sample

子うさぎと野ねずみのおばさんが、穴に入って隠れていると、

お腹をすかせたキツネがやって来ました。

二匹は見つからないよう、息をひそめました。

「おやっ、この辺りにごちそうのにおいがするぞ。」

と、キツネはそういうと、辺りを見渡しました。



sample

キツネはしばらく、辺りのおいをかいていましたが、  
二匹には気がつかないで、去っていきました。  
すると、今度は上の方から誰かやってきました。



次にやってきたのは、お腹をすかせたシジュウカラでした。

子うさぎが地面に落とした木苺を見つけたのです。

シジュウカラはあっという間に木苺を食べてしまいました。

そして、こう言いました。

「うーん、まだ、足りないなー。」



それを聞いた子うさぎは、バッグから木苺を取り出しました。

「お腹がすいているの？これを食べてもいいよ。」

と、言いました。

「本当！ありがとう。」

と、シジウカラはそう言々と、木苺をおいしそうに食べました。

「ごちそうさま」

シジュウカラは木苺を食べ終わると、飛び立とうとしました。

すると、野ねずみのおばさんが

「ちょっと待って、小鳥さん。一つ頼まれておくれ。」

この子うさぎちゃん、迷子なんだよ。

あんた、空からこの子のお母さんを

探してきてくれないかい？」

と言いました。







sample

シジュウカラは、  
「それは、大変！美味しい木苺をご馳走になったんもの。  
それくらいお安いご用だよ。そこでちょっと待ってて！」  
そうと言うと、パッと空へ飛び立ちました。



sample

シジュウカラが空から辺りを見回すと、  
何かを探している様子の親子のうさぎを見つけました。  
きっと、あの子うさぎのお母さんにちがいない、  
シジュウカラは思いました。

シジュウカラは、うさぎの親子の  
そばの木の枝にとまると、  
うさぎのお母さんに、  
「あなたは、青いバッグを持った  
子うさぎちゃんのお母さんですか？  
私は、その子うさぎちゃんの  
居場所を知っています。」と言いました。  
「それは、本当ですか？」  
と、うさぎのお母さんは、目を大きくして  
聞き返しました。

An illustration featuring a blue jay perched on a branch with yellow leaves in the upper left, and a white rabbit with a yellow collar in the lower right. The rabbit is looking towards the bird. The word 'sample' is overlaid in large, bold, grey letters across the center of the image.

sample



シジュウカラは、うさぎのお母さんを  
青いバッグの子うさぎが待つ場所に案内しました。  
青いバッグの子うさぎは、お母さんを見つけると、  
泣きながら抱きつきました。  
「坊や、心配したのよ!この子ったら、もう。」  
と、お母さんうさぎは、言いました。



「野ねずみのおばさん、小鳥さん、  
ありがとう。」

うさぎの親子は、しっかりと  
手をつないでいます。

野ねずみのおばさんは  
「もう迷子になるんじゃないよ。」  
と言って、手を振りました。



ようやく、おじいさんのお家が、見えてきました。

おじいさんが、家の外で待っています。

親子をみつけると、やさしく手を握りました。

sample

青いバッグの子うさぎは、

おじいさんの姿を見つけると、

嬉しくなって駆け出しました。





青いバッグの子うさぎは、  
持ってきた木苺をバッグから取り出すと、  
おじいさんに手渡しました。  
おじいさんは、少し驚いた顔をして  
「これは、坊やが採ってきてくれたのかい？」  
と聞きました。  
それから、木苺をゆっくりと、一口食べました。  
「こんなにおいしい木苺を食べたのは初めてだよ。ありがとう。」  
そう言って、子うさぎにやさしく微笑みました。

いしだえほん No.0180

# うさぎの親子

2019年8月23日 初版発行

文・絵 **ふるしょう まいこ**

印刷・製本・発行 **石田製本株式会社**  
〒063-0836 北海道札幌市西区発寒16条14丁目3-31  
TEL 011-676-4520  
<http://i-bb.co.jp/>

©2019 Maiko Furusho / Ishida Bookbinding

※本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。  
また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。  
活丁・表丁はお取り替えいたしますので、弊社までご連絡ください。

ISBN978-4-909939-79-1

石田製本の直販サイト「いしだえほん」にて、  
シリアスな物からシュールな物まで、楽しい絵本が日々発売中です！  
<http://p-books.jp/ehons/>



ISBN978-4-909939-79-1  
C8771 ¥1200E

定価：本体1,200円+税



9784909939791



1928771012000

